学校番号	407

令和８年度　芸術〔書道〕科

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「書Ⅰ」（教育図書）						
副教材等	必要に応じ、独自教材を授業担当者が作成して配布						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１．小学校ならびに中学校国語科「書写」の授業で学習したことの確認と理解の深化を図ります。
（１）書道用品・用具については、筆・墨・紙と（硯）の知識を習得し、適切な取り扱い方の理解を図ります。
（２）日本固有の文字文化である「仮名文字」については、①仮名の歴史、②ひらかな（平仮名）の筆順と字源漢字、③カタカナ（片仮名）の筆順について、以上の理解を図ると同時に、②および③については、完全習得をめざします。
２．高等学校芸術科書道としては、毛筆を使って言葉を書くことについての理解を深め、実習を通じて「書写」の授業で学習した“正しく・整えて・速く”書くことができる技能の育成・向上に加え、書く人の思いをよりよく表現（書き表すこと）することができる学習内容を実施します。

2　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
【知識及び技能】
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】
主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・書の表現の方法や形式､書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	ガイダンス	オリエンテーション ①授業を受けるに際して ②確認小テスト 平仮名と片仮名の筆順 ③平仮名字源漢字資料配付	a:配付教材に板書、口頭説明を適切に記録することができるかを確認。 ③は②の平仮名の筆順理解の補助教材としても使用。 c:②は自己採点の得点を初回分として記録。採点結果は返却し、今後の学習に活用。 ③は字源漢字の暗記に使用。			
	「仮名の書の学習」(その1)	「平仮名」の学習＜1＞ ①文字について ②仮名について(その1) ③平仮名(細字)の書写 執筆・運筆、「50音順」で書く平仮名と「いろは歌」順で書く平仮名およびその相違の考察 ④平仮名筆順確認学習 ⑤カタカナ筆順確認学習 ⑥平仮名字源漢字の学習	a:①・②共通 配付教材に板書、口頭説明を適切に記録することができるかを確認。 c:③は毛筆（小筆）を使用し、教科用図書や独自作成教材を活用して書写。 ④・⑤は小テストで誤答した文字を含めて正しい筆順で書くことに努める。 ⑥は平仮名の原形として字形及び筆順の習得に活用。 c:文字の羅列の書写と言葉の書写との違いを考える。	配付教材への記入		振り返りシートへの記入 実技提出物

1学期	「仮名の書の学習」（その2）	「平仮名」の学習＜2＞ ①仮名について(その2) ②平仮名（細字）の書写 執筆・運筆の確認、単体で書く平仮名、濶渇の理解、「いろは歌」で書く平仮名、特に文節毎に墨継ぎをする、渇筆を長く保つこと ③平仮名筆順確認学習 ④カタカナ筆順確認学習 ⑤平仮名字源漢字の学習	a:①は配付教材に板書、口頭説明を適切に記録することができるかを確認。 b:毛筆ならではの表現効果を味わい、感受しているか。 c:②の小筆の使い方（執筆・運筆）は生徒の状態を観察して確認。特に、渇筆時の筆の扱い方を重視して指導する。 ③および⑤は小テストで誤答した文字を含めて正しい筆順で書くことを重視。 字形の取り方も参考資料として活用。 c:②の墨継ぎと濶渇は実技提出物を掲示して相互に鑑賞する機会を設定する。	配付教材への記入	実技提出物	振り返りシートへの記入 実技提出物
	「仮名の書の学習」（その3）	「平仮名」の学習＜3＞ ①仮名について(その3) ②平仮名（細字）の書写 執筆・運筆の再確認、「いろは歌」で書く平仮名は文節毎に墨継ぎをする ③連綿を理解する ア:字間を空ける イ:書き終わりと次の書き始めを理解する ウ:連綿する（二文字） エ:連綿する（三文字） オ:連綿する（いろは歌を文節区切りで） ④平仮名筆順確認学習 ⑤カタカナ筆順確認学習 ⑥平仮名字源漢字の学習	a:①は配付教材に板書、口頭説明を適切に記録することができているかを確認。 b:連綿することでより速く、美的に言葉を書写することが可能になることを理解する。 c:小筆の使い方（執筆・運筆）が連綿することに影響することを理解する。生徒の状態を観察して確認。 ③では基礎・基本的な考え方の理解を図り、言葉として書くことを重視して学習する。 ④・⑥は小テスト採点結果を踏まえて、改善が図られているかを確認するために活用。 c:濶渇・遅速の差による墨色変化と立体感を感受し、深みのある表現が可能になることを読み解く。	配付教材への記入	実技提出物	振り返りシートへの記入 実技提出物

1学期	「仮名の書」の学習(その4)	「平仮名」の学習＜4＞ ①仮名について(その4) ②平仮名(細字)の書写 「いろは歌」で書く平仮名 文節毎に連綿する、句毎に連綿する、墨継ぎと潤渇の位置を工夫する、実技確認小テスト(二文字連綿、三文字連綿、四文字・五文字連綿)「いろは歌替え歌」で書く平仮名(今まで学習したことを応用して ③平仮名筆順確認学習 ④カタカナ筆順確認学習 ⑤平仮名字源漢字の学習	a:①は配付教材に板書、口頭説明を適切に記録することができるかを確認。 b:②は正しく連綿できるだけでなく、美的要素も考慮・工夫しているかを確認する。 c:②は小筆の使い方(執筆・運筆)および墨の使い方が影響することを理解する。生徒の状態を観察して確認。 ③・⑤は改善が図られているかを確認するために活用。 c:正しい考え方と筆の扱い方に基づいた連綿がもたらす美しさを感受する。	配付教材への記入	実技提出物	振り返りシートへの記入
	「仮名の書」の学習(その5)	「平仮名」の学習＜5＞ ①和歌について ②和歌を書道作品として書く ア:作品形式について イ:和歌を選択・決定する ウ:すべて平仮名に置き換えて字配りする エ:墨継ぎに留意し、連綿を加える オ:書き込む カ:作品候補を選択する キ:料紙に清書する ③作品を掲示し、批評会	a:①は配付教材に板書、口頭説明を適切に記録することができるかを確認。 b:②は正しく連綿できるだけでなく、作品全体にわたり、美的要素も考慮・工夫しているかを確認する。 c:②は小筆の使い方(執筆・運筆)および墨の使い方が影響することを理解する。生徒の状態を観察して確認。 c:③は生徒作品を掲示し、相互に批評する機会を設定する。 「批評・感想用紙」を配付し記入、提出してその内容を確認。	配付教材への記入	実技提出物	振り返りシートへの記入 実技提出物 批評・感想用紙への記入
1学期	小テスト	①平仮名筆順(第2回目) ②片仮名筆順(第2回目) ③平仮名字源(第1回目)	a:今までに積み重ねてきた学習の成果を発揮させることが出来るように努める	確認小テストの得点		

2学期	「漢字の書」の学習（その1）	「楷書の学習」＜1＞ ①書体について ②楷書について ③特徴をとらえるために(1) 違いを受け止めて表現する 形を再現する(部分と全体) 用筆・運筆を学ぶ 用筆(直筆・側筆)(方筆・円筆)、運筆(速度・緩急) 用墨を学ぶ (潤渇、濃淡)	a:①・②は配布教材に板書、口頭説明を適切に記録することができるかを確認。 b:③は教科書掲載の法帖や作品例等を参照し、臨書することを通じて多種多様な表現ができる可能性を持っていることを理解する。 c:③の学習を通じて、毛筆を使用するための技能が多種多様な表現のために必要なことを理解する。 c:楷書体の備える、一点一画を積み重ねて文字を書くことによって生じる“構造の美”について理解する。	配付教材への記入	実技提出物	振り返りシートへの記入 実技提出物 批評・感想用紙への記入
	「漢字の書」の学習（その2）	「楷書の学習」＜2＞ ①特徴をとらえるために(2) 違いを受け止めて表現する、形を再現する(部分と全体)用筆・運筆を学ぶ、用筆(直筆・側筆)(方筆・円筆)、運筆(速度・緩急) 用墨を学ぶ(潤渇、濃淡) ②創作による応用(1) 「一字書」作品制作 「一字書」について 漢字一文字を決める(1) 布置・章法を学ぶ(紙面構成)	a:①を通じて作品制作を行うことの興味・関心を喚起する。 b:①は教科書掲載の法帖や作品例等を参照し、試行することを通じて多種多様な表現ができる可能性を持っていることを理解する。 c:①・②の学習を通じて、毛筆を使用するための技能が多種多様な表現のために必要なことを理解する。 c:⑤は生徒作品を掲示し、相互に批評する機会を設定する。	配付教材や補助教材への記入	実技提出物	振り返りシートへの記入 実技提出物
2学期	「漢字の書」の学習（その3）	「楷書の学習」＜3＞ ①創作による応用(2) 「一字書」作品制作 「一字書」について 漢字一文字を決める(2) 布置・章法を学ぶ(紙面構成)	a:作品制作を行うことの興味・関心を喚起する。 b:文字を決めることを通じて、どのように書き表すべきかを構想する。 c:今までの授業を通じて学習した毛筆書写の様々な技法を再確認して試行する。 c:提出に際し、自らの判断で作品の順位付けなどができるようにする。	授業観察	実技提出物	振り返りシートへの記入 実技提出物

2学期	「漢字の書」の学習（その4）	「楷書の学習」＜4＞ ①創作による応用(3) 「一字書」作品制作 「一字書」について 布置・章法を学ぶ(紙面構成)	a:作品制作を行うことの興味・関心をさらに喚起する。 b:文字を決め、徹底的に書き込むことを通じて、よりよい表現を得るための試行を重ねる。 c:自ら工夫した毛筆書写の技法を積極的に試行する。 c:提出に際し、自らの判断でさらに厳密な作品の順位付けができるようにする。	授業観察	実技提出物	振り返りシートへの記入 実技提出物
	「漢字の書」の学習（その5）	「楷書の学習」＜5＞ ①まとめ 「一字書」作品最終順位付 ②批評会	a:今回の学習を通じて作品創作したことの意義や感想をまとめる b:順位付けに際し、自らの工夫が生かされたかどうかを振り返りとしてまとめる。 c:作品を掲示して自らの考えがどのように受け止められたかを批評会を通じて確認し、まとめる。	作品制作感想用紙 実技提出物	実技提出物 作品制作感想用紙	作品批評用紙と自作品の振り返りシート 授業観察
2学期	小テスト	①平仮名筆順(第3回目) ②片仮名筆順(第3回目) ③平仮名字源(第2回目)	a:今までに積み重ねてきた学習の成果を発揮させることが出来るように努める	確認小テスト、第1回小テスト結果		
2学期	「漢字かな交じりの書」の学習（その1）	「漢字仮名交じりの書の学習」＜1＞ ①「漢字仮名交じりの書」について ②言葉を毛筆で表現することについて(1) 硬筆と毛筆との違い、毛筆で文字を書くことの特徴、毛筆の持つ表現の可能性 ③言葉の意味と表現について	a:漢字仮名交じりの文章を書くことは身近なことであること、毛筆による表現の可能性が大きなものであることを加えて、興味・関心を喚起する。 b:今までに学習してきたことを振り返り、今回の学習に生かす。 c:毛筆を扱うための技法を再確認する。 c:各人自身が“美的表現”の感受者であると同時に、発信者であることを理解する。	配付教材（補助教材）への記入	実技提出物	振り返りシートへの記入 実技提出物 授業観察

2学期	「漢字かな交じりの書」の学習（その2）	「漢字仮名交じりの書の学習」＜2＞ ①言葉を毛筆で表現することについて(2) 今までに学習したことの再確認とその組み合わせ、表現の可能性は無限大 ②言葉の表記と用紙の使い方について(1) 表記（縦書き・横書き）、用紙の使い方（縦長・横長）	a:無限に広がる可能性を踏まえて作品制作することを通じてさらに興味・意欲を喚起する。 b:今までに学習してきたことがらを実行して組み合わせていくことにより、新たな表現を試行・実現する。 c:毛筆を扱うための技法を取りまとめて応用する。 c:積極的に作品制作して多種多様な作品表現を行う。	配付教材（補助教材）への記入	実技提出物	振り返りシートへの記入 実技提出物 授業観察
2学期	「漢字かな交じりの書」の学習（その3）	「漢字仮名交じりの書の学習」＜3＞ ①言葉を毛筆で表現することについて(3) 今までに学習したことの再確認とその組み合わせ、表現の可能性は無限大 ②言葉の表記と用紙の使い方について(2) 表記（回文）、用紙の使い方（もみ紙など）	a:無限に広がる可能性を踏まえて作品制作することを通じてさらに興味・意欲を喚起する。 b:新たに追加する技法や書き方を取り入れて試行を重ねる。 c:今までに学習してきたことがらを実行して組み合わせていくことにより、さらに、新たな表現を試行・実現する。 c:さらに積極的に作品制作して多種多様な作品表現を行う。	配付教材（補助教材）への記入	実技提出物	振り返りシートへの記入 実技提出物 授業観察
2学期	「漢字かな交じりの書」の学習（その4）	「漢字仮名交じりの書の学習」＜4＞ ①言葉を毛筆で表現することについて(4) 今までに学習したことの再確認とその組み合わせ、表現の可能性は無限大 ②言葉の表記と用紙の使い方について(2) 用紙の使い方（寸法やタテヨコ比の違う用紙を使う）	a:無限に広がる可能性を踏まえて作品制作することを通じてさらに興味・意欲を喚起する。 b:新たに追加する技法や書き方を取り入れて試行を重ねる。 c:今までに学習してきたことがらを実行して組み合わせていくことにより、さらに、新たな表現を試行・実現する。 c:さらに積極的に作品制作して多種多様な作品表現を行う。	配付教材（補助教材）への記入	実技提出物	振り返りシートへの記入 実技提出物 授業観察

2学期	「漢字かな交じりの書」の学習（その5）	「漢字仮名交じりの書の学習」<5> ①言葉を毛筆で表現することについて(5) 今までに学習したことの再確認とその組み合わせ、表現の可能性は無限大 ②言葉の表記と用紙の使い方について(3) ③多字数の言葉を書くことについて(1) 行書きと散らし書き(余白のとり方)	a:無限に広がる可能性を踏まえて作品制作することを通じてさらに興味・意欲を喚起する。 b:新たに追加する技法や書き方を取り入れて試行を重ねる。 c:さらに、新たな表現を試行・実現する。 c:さらに積極的に作品制作して多種多様な作品表現を行う。	配付教材（補助教材）への記入	実技提出物	振り返りシートへの記入 実技提出物 授業観察
2学期	「漢字かな交じりの書」の学習（その6）	「漢字仮名交じりの書の学習」<6> ①今までに学習したことがらを応用し、さらに多種多様な作品表現を行う(1)	a:無限に広がる可能性を踏まえて作品制作することを通じてさらに興味・意欲を喚起する。 b:様々な技法や書き方を取り入れて試行を重ねる。 c:さらに、新たな表現を試行・実現する。 c:さらに積極的に作品制作して多種多様な作品表現を行う。	配付教材（補助教材）への記入	実技提出物	振り返りシートへの記入 実技提出物 授業観察
2学期	「漢字かな交じりの書」の学習（その7）	「漢字仮名交じりの書の学習」<7> ①今までに学習したことがらを応用し、さらに多種多様な作品表現を行う(2)	a:無限に広がる可能性を踏まえて作品制作することを通じてさらに興味・意欲を喚起する。 b:様々な技法や書き方を取り入れて試行を重ねる。 c:さらに、新たな表現を試行・実現する。 c:さらに積極的に作品制作して多種多様な作品表現を行う。	配付教材（補助教材）への記入	実技提出物	振り返りシートへの記入 実技提出物 授業観察
3学期	小テスト	①平仮名筆順(第4回目) ②片仮名筆順(第4回目) ③平仮名字源(第3回目)	a:今までに積み重ねてきた学習の成果を発揮させることが出来るように努める。	確認小テスト、第1回・第2回小テスト得点		

3学期	「漢字かな交じりの書」の学習（その8）	「漢字仮名交じりの書の学習」<8> ①今までに書いた作品を選び出すために順位付けを行う ②順位付けした作品に対し、自身が最善と考えたものを選び出す ③選び出した作品を批評会に提出する	a:各自の構想にかなったふさわしい作品を選択する。 b:様々な技法が自身の構想と合致している作品を見出す。 c:よりよい状態で書かれている作品を選択する。 c:自身の目でよりよい作品を選択する。	配付教材（補助教材）への記入	実技提出物	振り返りシートへの記入 実技提出物 授業観察
3学期	「漢字かな交じりの書」の学習（その9）	「漢字仮名交じりの書の学習」<9> 作品批評会	c:自身の構想や考えに基づいて選択した作品が他の生徒の目に触れることにより、様々な評価を受ける中で、一致することがらや相違することがら、他の生徒から評価を受けたことを自身で取りまとめ、振り返る。			作品制作感想用紙 実技提出物 作品批評用紙と自作品の振り返りシート 授業観察
3学期	「硬筆（実用書）」の学習（その1）	「漢字の書」、「仮名の書」、「漢字仮名交じりの書」の学習<1> ①「実用書」とは ②硬筆筆記用具について 鉛筆・シャープペンシル・ボールペンほか ③実用書式を書く(1) 住所・氏名・電話番号など字数や行数が少ないもの 原稿用紙の使い方、はがきや封筒の宛名書きなど	a:日常生活で硬筆筆記用具を使って書かれる各種実用書式についての興味・関心を喚起する。 b:実際に書くに際して、様式や状態に留意し、適切な書き方ができるようにする。 c:硬筆筆記用具の特徴を理解し、適切な使い方ができるようにする。 c:適切な書き方をすることにより、“読みやすく”、“わかりやすい”ものになることを理解する。	配付教材への書き込み	実技提出物	振り返りシートへの記入 実技提出物

3学期	「硬筆（実用書）」の学習（その2）	「漢字の書」、「仮名の書」、「漢字仮名交じりの書」の学習 <2> ①硬筆筆記用具の特徴 特にボールペンについて ②実用書式を書く(2) 英語表記（ブロック体・筆記体）、漢字（漢数字・部首・旧字体）、100文字程度の言葉や文章など	a:日常生活で硬筆筆記用具を使って書かれる各種実用書式についての興味・関心を喚起する。 b:実際に書くに際して、様式や状態に留意し、適切な書き方ができるようにする。 c:硬筆筆記用具の特徴を理解し、適切な使い方ができるようにする。 c:適切な書き方をすることにより、“読みやすく”、“わかりやすい”ものになることを理解する。	配付教材への書き込み	実技提出物	振り返りシートへの記入 実技提出物
3学期	「硬筆（実用書）」の学習（その3）	「漢字の書」、「仮名の書」、「漢字仮名交じりの書」の学習 <3> ①国語表記としての縦書きと横書きの違いについて ②実用書式を書く(3) 漢字仮名交じりの長文、ローマ字表記など	a:日常生活で硬筆筆記用具を使って書かれる各種実用書式についての興味・関心を喚起する。 b:実際に書くに際して、様式や状態に留意し、適切な書き方ができるようにする。 c:硬筆筆記用具の特徴を理解し、適切な使い方ができるようにする。 c:適切な書き方をすることにより、“読みやすく”、“わかりやすい”ものになることを理解する。	配付教材への書き込み	実技提出物	振り返りシートへの記入 実技提出物

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度